

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松本晶子	所 属		観光産業科学部 観光科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 観光科学科の目標に照らした教育目標の設定 考える力を身につけた学生を育成するための授業の工夫 授業評価等の指摘を取り入れた授業改善 学生からの積極的な意見の聴取 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> 観光科学科の目標に照らした教育目標をシラバスに記入した 考える力を身につけた学生を育成するためにグループ討議を授業に導入した 授業評価等の指摘を取り入れ、授業改善をおこなった 留学生のゼミ生と中国実習を実施した 			
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 科研費取得代表者としての研究運営 共同利用研究代表者としての研究運営 学術雑誌への投稿、学会での報告発表 学会誌編集員としての活動 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> 科研費取得代表者として海外調査を実施した 共同利用研究代表者として学生指導と研究を実施した 学術雑誌へ3件の発表、および学会で4件の報告発表をした 学会誌編集員として活動した 			
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 学外の審議会、委員会等への参画 教員免許更新講習および公開授業の開講 国際貢献への取組 他機関における教育支援 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋市東山再生フォーラムに参加した 教員免許更新講習を開講した ケニアにおいて大学生の教育支援をおこなった 			
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 所属部局および学科における委員会での業務の遂行 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 所属部局および学科における委員会に参加した 			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) このシートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)			
名前	荒川 雅志	所属	観光産業科学部観光科学科
職名	教授	業務ウエイト出(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
業務ウエイト出(予定)	平成27年度 年度目標設定	業務ウエイト出(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	3.00	3.00	<p>●【学士教育プログラムの目標に沿った教育の実践】</p> <p>学科特色科目「ヘルスツーリズム論」では、URGCC学習教育目標のすべてが学部教員平均値を上回っており目標は達成できた。座学のみでなく校外での体験実習を多く取り入れた授業構成に対し授業評価アンケートで好評価の記述が多数見られ地域特色ある講義が提供できている。</p> <p>●【外部研究者、実務家等との共同開発による最新の講義提供】</p> <p>日本の大学で初のスバ実践的講義「スバマネジメント論」では、日本最大のスバ業界団体NPO日本スバ振興協会、沖縄県エステティックスバ協同組合の後援を得て、スバ業界で活躍する第一線の講師陣を招聘してオムニバス形式で実施した。この様子は県内外メディアに取り上げられ対外的評価を得た。本学の証書授与大学の環として公開授業とし、全国から14名の社会人が参加し、修了証書を授与した。本講義は日本のトラスを定める業界の最高位「スバリストアワード2015」において「イノベーション部門賞」を受賞した。</p> <p>●【就学指導、就職活動の支援】</p> <p>ゼミ学生を対象に進路調査・指導をこまめに実施した。高い就職率(本シート提出時点2月末で9割台)を達成した。</p>
			<p>●【科研費代表者、分担研究者としての研究遂行】</p> <p>研究代表1件、分担研究3件に採択され(継続)当該研究を遂行した。</p> <p>1)荒川雅志研究代表「ヘルスツーリズムのエビデンス基盤構築」(2014～2016年度・文科省科研基盤研究(C))</p> <p>2)荒川雅志分担研究者「原発事故後の親の生活・健康変化の実態解明と社会的脆弱性向上に向けた介入研究」(2015～2017年度・文科省科研基盤研究(A))</p> <p>3)荒川雅志分担研究者「メンタルヘルスツーリズムの展開」(2014～2016年度・文科省科研基盤研究(B))</p> <p>4)荒川雅志分担研究者「生活習慣病予防のための宿泊を伴う効果的な保健指導プログラムの開発に関する研究」(2014～2016年度・日本医療研究開発機構研究費(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業))</p>

研究	3.00	3.00	<p>●【産官学連携の共同研究、受託研究等、外部資金の積極的な獲得】</p> <p>受託研究2件を獲得し研究を遂行した。</p> <p>1)沖縄県商工会連合会平成27年度地域ビジネス力育成強化事業「南城市ウェルネスツーリズム研究開発・検証事業」獲得(4,320千円)</p> <p>2)沖縄県 平成27年度誰もが生きて観光まちづくり業務「観光バリアフリーセミナープログラムに関する研究」(2,494千800円)</p> <p>●【学術誌、学会における成果発表】</p> <p>国際学術誌4件、国内学術誌1件、国際学会発表1件、国内学会発表7件(共同連名)、専門業界誌2件と一定の成果を挙げた。国際的な学術出版社であるシュブリンガー社発行の観光学百科事典「Encyclopedia of Tourism」において「日本の観光(Japan Tourism)」の章を共同執筆で担当したことは筆著すべき業績に挙げられる。</p> <p>知財(特許)の獲得では、民間との共同研究による特許出願申請が公開に至っている(荒川雅志ほか「ダイバー支援システム」公開番号2015-066372)。特許知財は観光産業科学部創設以来で初である。</p> <p>(研究論文)</p> <p>1) 荒川雅志, 日本再興戦略における日本型ヘルスツーリズムの再構成. メンタルヘルスツーリズムの展開. 観光研究, 27(1):18-23 2015</p> <p>2) 荒川雅志, なぜ海は体にいいの?: 海洋療法と観光の融合をどう図る. 総合物流情報誌 海運KALUN, 1054(7):77-80 2015</p> <p>3) Tanaka K, Miyake Y, Nagata C, Furukawa S, Arakawa M. Association of prenatal exposure to maternal smoking and postnatal exposure to household smoking with dental caries in 3-year-old Japanese children. Environ Res. 143:148-153 2015</p> <p>4) Miyake Y, Hitsumoto S, Tanaka K, Arakawa M. Association Between TSLP Polymorphisms and Eczema in Japanese Women: the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. Inflammation. 38(4):1663-1669 2015</p> <p>5) Tanaka K, Hitsumoto S, Miyake Y, Okubo H, Sasaki S, Miyatake N, Arakawa M. Higher vitamin D intake during pregnancy is associated with reduced risk of dental caries in young Japanese children. Ann Epidemiol. 25(8):620-625 2015</p> <p>6) Miyake Y, Tanaka K, Arakawa M. IL5RA polymorphisms, smoking and eczema in Japanese women: the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. Int J Immunogenet. 42(1):52-57 2015</p> <p>7) Erwei Dong, Masashi Arakawa, Japan. Tourism. In J. Jafari and H. Xiao (eds.) the Encyclopedia of Tourism. Springer.</p> <p>(学会発表・研究発表)</p> <p>1) Arakawa M, Erwei Dong, Takahashi N. Health Tourism in Japan, 3rd Annual Conference Proceedings Asia Pacific Chapter, Travel and Tourism Research Association(STRATA), 100-101 2015</p> <p>2) 荒川雅志, 図師里佳, 上間英樹, ほか. 水中瞑想プログラムの心身健康効果—世界初LED水中可視光通信技術による水中会話指導—, 日本レジャー・レクリエーション学会第45回学会大会, 兵庫</p>
			<p>●【科研費代表者、分担研究者としての研究遂行】</p> <p>研究代表1件、分担研究3件に採択され(継続)当該研究を遂行した。</p> <p>1)荒川雅志研究代表「ヘルスツーリズムのエビデンス基盤構築」(2014～2016年度・文科省科研基盤研究(C))</p> <p>2)荒川雅志分担研究者「原発事故後の親の生活・健康変化の実態解明と社会的脆弱性向上に向けた介入研究」(2015～2017年度・文科省科研基盤研究(A))</p> <p>3)荒川雅志分担研究者「メンタルヘルスツーリズムの展開」(2014～2016年度・文科省科研基盤研究(B))</p> <p>4)荒川雅志分担研究者「生活習慣病予防のための宿泊を伴う効果的な保健指導プログラムの開発に関する研究」(2014～2016年度・日本医療研究開発機構研究費(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業))</p>

			<p>3)高屋優, 荒川雅志, ほか. 次世代ヘルスケアとヘルスツーリズム—宿泊型新保健指導試行事業における観光アクティビティ実施状況—, 日本レジャー・レクリエーション学会第45回学会大会, 兵庫</p> <p>4) 図師里佳, 荒川雅志, ほか. タラソテラピーによる心身の健康効果, 日本レジャー・レクリエーション学会第45回学会大会, 兵庫</p> <p>5) 孫彩, 荒川雅志, 高橋伸佳, 友利直子. 沖縄における医療ツーリズム, 国際医療交流の取り組み, 日本観光研究学会第30回全国大会, 群馬</p> <p>6) 喜瀬真雄, 青木一雄, 荒川雅志, ほか. 沖縄県内ウォーキングイベント参加者のロコモ度テスト結果, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎</p> <p>7) 喜瀬真雄, 青木一雄, 荒川雅志, ほか. 沖縄県内ウォーキングイベント参加者の体力医学的特性, 九州理学療法士・作業療法士合同学会2015, 沖縄</p> <p>8) 喜瀬真雄, 荒川雅志, ほか. 沖縄県内ウォーキングイベント参加者の日常生活移動機能～ロコモ度テスト2ステップ値に注目して～, 第17回沖縄県理学療法学会大会, 沖縄</p>
社会貢献	3.00	3.00	<p>知の地域創生拠点大学の社会貢献に資する圏域各種事業への参画、委員参画、講演等を精力的に実施した。</p> <p>●【圏域市町村等の委員会等への参画】</p> <p>1)座間味村「まちひとしごと地方創生総合戦略有識者委員会」委員就任</p> <p>2)読谷村「まちひとしごと創生審議会」委員就任</p> <p>3)内閣府「沖縄独自の医療情報基盤を活用した実践的サポート及び医療情報活用産業調査検討委員会」委員就任</p> <p>4)沖縄県文化観光スポーツ部「沖縄食文化の魅力味わい事業」検討委員会委員長就任</p> <p>5)沖縄県文化観光スポーツ部「沖縄観光バリアフリー・アドバイザー派遣に関する委員会」委員長就任</p> <p>6)うるま市「うるま市観光まちづくり推進協議会」委員就任</p> <p>7)経済産業省健康寿命延伸産業創出推進事業「ヘルスツーリズム品質評価プロジェクト」認証制度検討委員会委員就任</p> <p>8)「地域デザイン学会」特命担当理事就任</p> <p>●【産官学連携の共同研究、受託研究等成果の輩出】</p> <p>内閣総理大臣表彰「第6回ものづくり日本大賞特別賞」を受賞(LED通信技術を用いた水中通信機器の開発)。琉球大学の教員として同賞受賞は初である。</p> <p>●【各種講演、講義の提供】</p> <p>1) 荒川雅志「ウェルネス地方創生“健康×医療×食×美容×運動×農業×観光”多業種の連携による地域活性化に向けて」新しいツーリズムを考えるまちづくり勉強会, 2016年2月29日, 石垣市</p> <p>2) 荒川雅志「次代の観光誘客戦略としてのバリアフリー」観光バリアフリー講習会, 伊江島観光協会, 2106年2月15日, 沖縄県伊江村</p> <p>3) 荒川雅志「なぜ海は体にいいの?—健康を手に入れる沖縄ライフ—」大和ハウス工業主催沖縄移住セミナー, 2106年2月14日, 東京</p> <p>4) 荒川雅志「水中可視光通信技術を活用した水中瞑想プログラムの実演」, 沖縄県工業連合会主催第39回沖縄県産業まつり, 2015年10月23-25日, 沖縄県武山公園</p>

			<p>5) 荒川雅志「日本再興戦略と次世代ヘルスケア産業の動向～次世代の保健指導と健康運動実践指導士の役割～」健康・スポーツ産業イノベーションセミナー, 2015年10月28日, うるま市</p> <p>6) 荒川雅志「医療農産・ヘルスツーリズムと地方創生」ICORC地方創生アクティブニアのコミュニティOCRO日本版, 沖縄版を探るシンポジウム, 2015年10月5日, 西原町</p> <p>7) 荒川雅志「琉球大学サマナマネジメント論公開講座in SPA WELLNESS JAPAN」2020年への期待」, スパ&ウェルネスジャパン2015年9月7日, 東京ビックサイト</p> <p>8) 荒川雅志「健康を手に入れる旅」, 第7回スパシンポジウム, スパ&ウェルネスジャパン2015年9月7日, 東京ビックサイト</p> <p>9) 荒川雅志「今求められる、こころを軽やかにする観光」日本観光研究学会シンポジウム, 2015年5月30日, 東京・立教大学</p> <p>10) 荒川雅志「Health Tourism in OKINAWA健やかな心身を取り戻す旅」三菱UFJモルガン・スタンレーPB証券会員誌「Fortuna」2015年春号特集号記事監修</p> <p>11) 荒川雅志「健康を手に入れる旅～ウェルネス&スパツーリズム」日本スバ振興協会(NSPA)年次総会基調講演, 2015年6月12日, 東京品川</p> <p>12) 荒川雅志「アジアヘルステータタップアップセンターハブ構想—健康医療・ウェルネス市場と沖縄の可能性」沖縄県アジア経済戦略構想策定委員会, 2015年5月27日, 沖縄県庁</p> <p>13) 荒川雅志「沖縄ウェルネスツアーヘルスツーリズムの現状とトレンド～次世代型観光としてのバリアフリー～」オキナワリゾート&スパ 一般社団法人バリアフリー旅行ネットワークバリアフリー旅行セミナー, 2015年6月2日, 名護市</p>
管理運営	1.00	1.00	<p>●【全学委員会、学部委員会の委員参画】</p> <p>●【学内役割分掌における業務の遂行】</p> <p>担当する各種委員会へ定例会に出席し円滑な学部学科運営に寄与した。</p> <p>1) 危機管理対策検討委員会</p> <p>2) 教務事務電算化委員会</p> <p>3) 島嶼防災研究センター運営委員会</p> <p>4) 施設管理・安全衛生委員会</p> <p>5) 学科時間割担当表担当</p>
	0.00	0.00	
計	10.00	10.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 学外公表に同意しない。 学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		下地芳郎		所 属		観光産業科学部 観光科学科
				職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 観光政策論、国際観光論、地域開発論等を通して具体的事例や外部講師等との議論を踏まえて「実践的」な教育を行う。授業の成果の一部は自治体や企業等の活動に反映させる。 ゼミ指導教員及び3年次指導教員として、ゼミ活動の強化及び次年度就職活動に向けての指導を行うとともに、琉球大学観光研究サークル「琉球ツーリズムクラブ」の顧問として活動を支援する かりゆし人材育成基金総括担当者として同研修制度の一層の強化を図る 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> 観光政策論及び国際観光論において、地域観光協会職員や旅行会社社長を招いて地域の実状紹介を行ったほか、集中講義で企業と行政職員を交えたアイディアソンを実施し学生の主体的な学びの機会を強化した。 ゼミ活動では3年次が全国規模コンテストで観光教育をテーマに発表し、審査員特別賞を受賞した他、2年次は北谷町商工会と連携してアメリカンビレッジ活性化策を検討している。また、琉球ツーリズムクラブに対して、COC事業の学生プロジェクトに応募してもらい久米島地域の貢献策提案を指導した。 かりゆし人材育成基金総括担当者として今回からアジアとハワイ4地域プロジェクトを実施した。 	
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄観光の新たな展開についての基礎調査を行う。 沖縄ツーリズム学会を設立し、県内外の産学官連携による沖縄観光振興策の研究を行うとともに、研究成果は学会や講演会等で発表する 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄観光の新たな展開についてビジネスリゾート構築研究を行い、講演会等を通して発表を行った。 沖縄ツーリズム学会設立には至らなかったが、新たに「アレルギーサポートデスク」を設立し、観光業界の支援を行った。 沖縄観光の歴史を観光開発の視点から捉え、その効果と課題をまとめ月刊レジャー1月号で紹介した。 	
社会 貢献	0.35	<ul style="list-style-type: none"> 琉球大学が進める「地(知)の拠点整備事業」の本部長として地域における「学び直し」の活性化を図る 琉球大学全体の広報戦略を構築し、県内及び国内外における認知度を高めブランド力強化につなげる 沖縄県及び市町村、経済団体等における各種委員会活動を強化する 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> 琉球大学が進める「地(知)の拠点整備事業」の本部長として地域における「学び直し」の活性化にとりくんだ他、経済産業省事業を通してサービス関連企業支援を行った。 琉球大学全体の広報戦略策定の取りまとめを行い、次年度からHP改革をはじめ各種改革を行うことになった。 沖縄県のMICE委員会委員長、泡盛振興委員長をはじめ那覇市中小企業審議会会長など各種委員会活動を通して地域貢献を行った。 	
管理 運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> 行政機関や産業界等との連携を図り学科の円滑な運営に寄与する 学科長(&副学部長)として全年次指導教員と連携した学生の履修状況、大学生生活の支援を行う 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県や市町村、経済団体等へ協力依頼を行い、授業への反映を行った 学科長(&副学部長)として全年次指導教員と連携した学生の履修状況、大学生生活の支援を行なった 	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	平野 典男		所 属	観光産業科学部 観光科学科	
職 名	教授				
領域	業務ウエイト比(予定)	平成27年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	1. 学生にわかりやすいパワーポイント資料の作成等、事前準備を入念に行う。特に今年度新たに開講する運輸ビジネス論については、学生の関心・理解が高まるようビデオ教材の活用をはかっていく。 2. 企業での実体験や最新の観光業界のトピックスなども取り上げ、受講生の関心を高めるよう工夫する。ゼミでは学生たちが就業意識の向上や国際感覚の取得が図れるよう指導していく。 3. インターンシップにおいては新規研修先の開拓や運営方法の整備に努める。学生からの就活相談があった場合は積極的に助言を行う。 4. 1年次担任として、学習面・生活面での相談があれば積極的に応じ、早く大学生活になじむことができるようサポートしていく。		0.30	1. 運輸ビジネス論総合評価は4.5と学部平均4.2を上回った。視聴覚教材の掲示が効果的との回答については4.7と学部平均4.1を大きく上回りビデオ教材の活用成果が出たと思料する。他の科目の総合評価も学部平均値を上回った。 2. ホテル経営論Ⅰの授業の一環としてハイアットリージェンシーの見学・総支配人セミナーの開催を実施。ゼミではチュチュ・アリビラの訪問・オクマでのマネージャーによる勉強会の開催やOCVBの学卒プロジェクトの参加など観光産業関係者との交流や現場訪問の機会を提供した。 3. 今年度も、百名伽藍、JR九州、よしもとエンタテインメント沖縄を始め、新規に9社を開拓した。 4. 1年次担当として沖縄観光入門・基礎演習を担当するとともに、学生からの相談などに応じた。休学者・退学者は発生していない。
研究	0.20	1. 契約理論の観点から、ホテルのリブランドに関する研究を行なう。 2. 航空産業におけるアライアンス問題、日本におけるLCCの展開等について研究を進める。 3. 早稲田大学会計研究所の招聘研究員として同研究所の研究会への参加に努める。		0.10	1. リブランドに関連して、長期契約の場合と短期契約を繰り返す場合の業績測定に関連する論文解題を行った。来年度、出版の予定。 2. LCCに関連する情報を収集を進めている。 3. 研究会への参加はできなかったが、研究会メンバーの共著として、上記1の作業を行った。
社会貢献	0.20	1. 沖縄観光コンベンションビューローの企画総務委員として専門的立場から沖縄観光振興に関する提言を行う。 2. 沖縄本島地域タクシー準特定地域協議会会長として専門的立場から沖縄県タクシー事業の適正化、活性化に向けて協議を進める。		0.20	1. 沖縄観光コンベンションビューローの経営体制の変化により、企画総務委員は継続とならなかった。 2. 在任中であるが、本年度は会議体の開催はされなかった。 3. 沖縄21世紀ビジョンを担うグローバルサービス経営人材育成プロジェクトに参加し、シラバスの作成等を行った。 4. 厚生省が進めるホテル産業職業能力検定試験の実施に向けて、NPO・シニアマイスターネットワークの教科書作成作業に参画し、執筆を行った。来年度出版の予定。
管理運営	0.30	1. 観光科学研究科長として同研究科の円滑な管理運営を心がける。 2. 「かりゆしの沖縄観光人材育成基金」の企画・運営に参画する。		0.40	1. 研究科長として、現況調査票の作成・提出を行った。また、北大との交換授業の推進に努めた。 2. かりゆし海外研修で上海・無錫に学生を引率した。また研修の前後の予備調査や報告会準備の指導を行った。春節ツアーの提案はかりゆし社長から高い評価を頂いた。 3. 評議員として教育研究評議会・学部調整会議に出席したほか、全学教育委員会・グローバル支援気候会議、企画経営戦略会議、大学院委員会、広報委員会、将来計画委員会等の会議体に参加した。将来計画委員会では学部再編についてたたき案の作成を行った。また、授業評価シートをURGCCとの関連性づける形で改訂を行った。
				0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		片岡英尋	所 属		観光産業科学部観光科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	「観光学概論」の講義内容につき「基礎演習」担当教員と連携の内容の向上を図る。 最終年次のゼミ生と留学から復帰するゼミ生への対応が一面的にならないように留意し、希望の進路に進むサポートを充実させる。			0.40	留学から復帰したゼミ生の進路が希望通り決定した。最終年次の学生は、進学、公務員試験受験等、就職以外の者も含めて学生の希望に沿って進路が決定した。		
研究	0.40	科研費研究の成果を、論文としてまとめ、年度中にシンポジウムを開催する。			0.30	科研費研究の成果を踏まえて紀要に「メディカルツーリズム再論」を投稿、査読を経て採録された。シンポジウムに関しては、次年度に向けて準備中である。		
社会貢献	0.10	うるま市中小企業振興審議会の会長を拝命しており、同市の中小企業の活性化に注力する。			0.10	クルーズ船の寄港に伴う対応策につき、審議会会員と共に提言を行い、次年度のうるま市における中小企業施策策定に貢献した。		
管理運営	0.20	委員会委員として、管理運営に付加価値をもたらす。			0.20	設定した目標に尽力した。付加価値はもたらさなかった。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	波多野 想		所 属	観光産業科学部 観光科学科	職 名	准教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成27年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・学生支援	0.20	<p>平成27年度、学部においては、必修科目として「観光地理学」「観光学演習Ⅰ」「観光学演習Ⅱ」、選択科目として「観光産業論」「観光景観論」「世界遺産論」を提供する。また大学院においては「観光資源マネジメント特論」「文化観光資源マネジメント演習」「特別研究」を担当する。</p> <p>昨年度に引き続き、各科目において、Problem Based Learning (PBL、問題解決型授業)の手法を取り入れ、思考能力や問題解決能力を養うことを目標に、知識の吸収に留まらない授業を実施する。また、大学院2年次の修論作成に向けて、院生の学外における研究発表のための論文作成時の教育の力を入れる。また研究室における活動をより充実させるため、週一度夜間に読書会を開催する。大学院教育においても、独自に大学院ゼミを週一度開催し、大学院生および大学院進学希望者の研究能力の向上に努める。</p>	0.20	<p>学部においては、必修科目として「観光地理学」「観光学演習Ⅰ」「観光学演習Ⅱ」を講じた。「観光地理学」においては、Problem Based Learning (PBL、問題解決型授業)の手法を取り入れ、思考能力や問題解決能力を養う授業を心がけた。「観光学演習Ⅰ」では、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」における観光ガイドと文化遺産の関係性を明らかにする現地調査を実施し(2015年9月6日～9日)、その研究成果を観光社会学研究会(越智ゼミ)との合同発表会の場(2015年12月24日)で発表した。「観光学演習Ⅱ」においては、南城市観光商工課との協働を視野にいれ、南城市西原集落において調査研究およびワークショップを実施した。同調査研究は南城市観光商工課との協力のもと、具体的に地域活動の一環として行われているもので、学生にとっては観光学や地域活性化に関する理論や方法論の獲得のみならず、実践を通して自身の活動を社会に還元する方法を学ぶこととなる(実践力を養うための指導を徹底した)。今年度は特に、「オモイデモケイ」と題したワークショップを西原集落で開催し(2015年6月21日)、その成果をガイドブック『追憶』に結びつけた。また2013年度4年生が参加した「宜野湾市まちづくり・地域活性化プレゼンテーション大会」に関連し、宜野湾市商工会TMO普天間とともに普天間商店街の活性化を目標としたスキームの構築を開始した。</p>		
研究	0.25	<p>島根県(教育庁文化財課世界遺産室)委託の研究プロジェクト(「東アジアの鉱山比較研究」)を、昨年度に引き続き受託する(受託先は大学院観光科学研究科とする)。本プロジェクト実施において、海外調査(台湾)を数度にわたり実施するとともに、これまでの成果を研究報告書としてまとめる。科研費に応募する。研究論文については、学会発表1件、審査付き論文2件以上を目指す。</p>	0.30	<p>島根県(教育庁文化財課世界遺産室)委託の研究プロジェクト(「東アジアの鉱山比較研究」)を平成27年5月1日付けで受託(～平成28年3月31日)し、台湾調査を実施した。またこの成果をもとに、来年度に成果報告をかねたシンポジウムが計画されている。科研費(「東アジアにおける文化遺産としての鉱山景観のマネジメント」(基盤研究C))を獲得した。研究論文は、以下の3件である。</p> <p>①平澤毅・波多野想「台湾の文化的景観」(『奈良文化財研究所紀要 2015』奈良文化財研究所、2015年 pp.31-31)</p> <p>②波多野想・平澤毅「台湾の『文化景観』にみる空間・法・社会」(『遺跡学研究』第12号、日本遺跡学会、2015年11月、pp.114-119)</p> <p>③波多野想「台湾における『文化景観』の遺産化」(瀬川昌久(編)『東アジアの世界遺産と文化資源』(東北アジア研究センター報告19)、2015年12月、pp.77-86)</p> <p>口頭発表は以下の4件である。</p> <p>①波多野想「開発初期の金瓜石鉱山における空間整備—日本植民地下台湾における鉱山景観の形成—」(『土木史研究講演集 Vol.35』土木学会、2015年、pp.83-90)(第35回土木史研究発表会、主催:土木学会、会場:熊本大学、日時:2015年6月20日～21日)</p> <p>②伊藤空・波多野想「新聞資料を通してみる九份における文化的景観の保存と開発」(『土木史研究講演集 Vol.35』土木学会、2015年、pp.79-82)(同上)</p> <p>③伊藤空・波多野想「商業施設を通してみる九份の観光地化に伴う空間変容に関する研究」(第30回日本観光研究学会全国大会、主催:日本観光研究学会、会場:高崎経済大学、日時:2015年11月28日)</p> <p>④崎浜由加里・波多野想「那覇市国際通りの観光地化に伴う空間変容に関する研究」(第30回日本観光研究学会全国大会、主催:日本観光研究学会、会場:高崎経済大学、日時:2015年11月28日)</p> <p>また共著『島嶼型ランドスケープ・デザイン—多角的アプローチによる考察(仮)』(藤田陽子編、第2章「台湾・金門島にみる文化的景観のダイナミズム」を担当)が2016年2月に出版される予定。</p>		
社会貢献	0.30	<p>①南城市で実施しているエコミュージアム設置計画への関与度を高め、南城市観光商工課観光振興係との協力関係構築につとめる。</p> <p>②①に関連して、ゼミ活動の一環として、南城市西原集落においてワークショップを開催することで、まちづくりに貢献していく。</p> <p>③宜野湾市商工会、TMO普天間と協力し、普天間商店街を対象としたワークショップを開催し、今後のまちづくり計画を策定していく。</p>	0.25	<p>①②上記の通り、学生主体活動として南城市西原集落においてワークショップを開催し、またその成果をガイドブックにまとめた。ガイドブックは5千部発行され、南城市内で配布されている。また来年度はゼミ活動で、玉城船越集落において調査研究を進めることを予定している。これらの一切が南城市観光商工課観光振興係が進める「尚巴志マスタープラン」の一環に位置づけられるまでになっている。</p> <p>③宜野湾市商工会、TMO普天間と協力し、普天間商店街を対象としたワークショップを開催した(「キョクマップワークショップ」、2015年11月3日、場所:りうぼう(普天間)1F催事場)。</p> <p>今年度中に関わった自治体等の委員会は以下の件である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄総合事務局開発建設部「景観委員会」委員および事業景観アドバイザー ・那覇市「那覇市都市デザインアドバイザー」 ・沖縄県教育庁「沖縄県世界文化遺産保存活用学術委員会」(委員) ・南城市「『南城市の民俗』専門委員会」(委員) ・糸満市「歴史の再発見による地域づくり事業～開国の父 ジョン万次郎の軌跡～」(委員長) ・西原町「西原町歴史文化基本構想策定委員会」(委員) 		
管理運営	0.25	<p>①広報委員として、学生募集パンフレットの作成を通じた広報体制の改善。特に今年度は、パンフレットのリニューアルを全面的に実施する。</p> <p>②国際交流委員会委員および国際交流専門委員会の委員として、JICAとの包括連携協定締結に向けた作業を進める。本年度中に確実に締結を達成できるよう業務を進めていく。</p> <p>③紀要編集委員として、編集事務の一部を担う。</p>	0.25	<p>①広報委員として、学生募集パンフレットを作成した。学科パンフレットを廃し、学部パンフレットを新たにデザイン・印刷した。</p> <p>②国際交流委員会委員および国際交流専門委員会・学生交流専門委員会の委員として、JICAとの包括連携協定締結に向けた作業を進めた。具体的には、包括連携協定に構想や覚え書き等の一切を作成し、JICAとの交渉を進めた。</p> <p>③紀要編集委員として、印刷業務を担当した。</p>		
	0.00		0.00			
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>	1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合は、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) このシートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	大島順子		所 属	観光産業科学部 観光科学科	
職 名			准教授		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	<p>①学生の効果的かつ効率的な教育環境の構築をめざし、授業運営に関する連絡(特に予習・復習の徹底)体制強化及び修学のモチベーションを高めることを目的に、担当する科目すべてにおいてe-learning(WebClass)を活用する。</p> <p>②大学教育センターのFD事業の一環として今年度も専門教育で担当する授業におけるポートフォリオに取り組む。</p> <p>③研究及び出張等で得られた知見や最新の情報を授業に反映させる。</p> <p>④現場から学ぶことを重視し、沖縄のフィールド(特に、やんばる地域)を活かしたゼミ活動を他学部との連携及び地域住民の支援を受けて取り組む。</p>		0.30	<p>①目標設定の通り、e-learning(WebClass)の活用を3科目において導入し、学生に浸透させることができた。予習(Study Guideをダウンロードし、事前学習に取り組む)を行わないと授業に積極的な参画ができない状況をつくり上げ、閲覧回数を向上させることができた。(例えば、「環境教育論」における【資料】閲覧回数合計は、1,135回であり、学生一人当たり15回の授業において28回閲覧したこととなる。)e-learningについて効果的な活用方法を学び、今後も授業に活かしていきたい。</p> <p>②「エコツーリズム入門」と「環境教育論」においてポートフォリオ及びアクティブ・ラーニングの方法を取り入れることができた。学生へのアンケート結果をもとに現在論文にまとめている。</p> <p>④ゼミ活動を農学部との連携及び地域住民の支援を受けて合計12日間取り組むことができた。</p>
研究	0.30	<p>①特化型研究「特色ある研究」に取組み、文部科学省の科学研究費助成事業「やんばるの自然資源の保全と適正利用のための地域住民の理解を作り出す仕組みの提案」(基盤研究C)の研究代表者として第二年度の研究を遂行する。</p> <p>②林野庁沖縄森林管理署の外部資金の獲得を目指し、「平成27年度希少野生生物保護管理事業(沖縄島北部)」担当者(契約主体は、琉球大学)として、国有林野の利活用における調査研究を行う。</p> <p>③平成26年度同様、中期計画達成プロジェクト経費(戦略的研究推進経費)を申請し、採用獲得を目指す。</p> <p>④農学部との共同研究として、「やんばる自然資源調査」の学際的な調査及び研究活動を継続して履行する。</p> <p>⑤上記①～④の成果を関連学会等の査読付き学術誌へ投稿する。(国際1件、国内1件)</p> <p>⑥8月21～23日に開催される日本環境教育学会(名古屋市立大学)にて、口頭発表を行う。</p> <p>⑦11月17～19日に開催されるGlobal Eco Conferrence(オーストラリアWA州)にて、口頭発表を行う。</p> <p>⑧国内の専門分野の学会誌の査読委員を担当する。</p>		0.30	<p>①・第二年度の研究は順調に進んでいる。</p> <p>⑥・⑦での発表は、①の成果発表の一部である。</p> <p>②受託した林野庁沖縄森林管理署の事業は計画通り遂行することができ、特にやんばる地域の住民の方々とは協同で作成した森林環境教育プログラムの開発については、2月20日北九州市にて発表する機会を得た。</p> <p>・再委託する部分と、調査研究の部分の調整が終わり、順調に進んでいる。</p> <p>③中期計画達成プロジェクト経費(萌芽研究)申請は採択に至らなかったが、平成26年度の成果の一部を10月6日開催の九州森林学会にて発表(共同研究)した。発表内容に準じた論文「石垣島の御嶽における地形と植生の関係」(共著)を『九州森林研究2015』に投稿し、査読が終了した。</p> <p>④順調に進んでおり、演習活動の一環として合計12日間実施した。</p> <p>⑤・年度内の投稿に向けて順調に進んでいる。</p> <p>・2016年3月発行予定の寺本潔他編著『観光教育への招待』(ミネルヴァ書房)の「第2章3節 観光の教育的価値と地域人材の育成」及び「コラム:ワイルドドライブ・ツーリズムと環境教育」を担当執筆した。</p> <p>⑥日本環境教育学会・名古屋大会(8月22日)において「地域課題の具体化と再文脈化を共有する学習機会の創出ー沖縄やんばるの森の保全と適正利用の在り方を目指してー」と題した口頭発表及び「観光の教育力と環境教育」と題する自主課題研究会を実施した。</p> <p>⑦Wildlife Tourism conference(オーストラリアVIC州:9月30日)にて、「Wildlife tourism in Okinawa, JAPAN – Current issues and future prospects-」と題した口頭発表を行い、発表内容に準じた要約論文をJournal of Sustainable tourismに投稿中である。</p> <p>⑧所属する学会の論文(和文)査読を2件担当した。</p>
社会貢献	0.20	<p>①沖縄県の自然環境保全審議会等、審議会委員に継続して参画する。</p> <p>②沖縄県内自治体の各種委員会の委員に継続して参画する。 上記の委員会等には、学内の教育研究に支障無く関わることはもちろんであるが、参画することにより入手できる貴重な(学術的及び統計的)情報を教育研究に活かすよう努める。しかしながら、審議会や委員会の再任にあたっては就任の削減に努める。</p> <p>③公開授業(2科目)の提供及び公開講座「ヤンバルクイナを飼って考える」(4月25～26日)及び「やんばる山学校」(11月28～29日)の代表担当教員として地域の指導者と学部の教員と共同で開催する。</p> <p>④JICA研修における講義の担当及びカリキュラム作成にあたっての協力を行う。</p> <p>⑤平成26年度に引き続き、免許状更新講習3件を提供する。</p>		0.20	<p>①沖縄県の自然環境保全審議会及び公共事業評価委員会等の委員(計3件)として、参画した。</p> <p>②多忙になることが予想できたため、県内自治体の新規の委員就任は断った。</p> <p>③公開授業(2科目)で2名の一般受講生、公開講座(2講座)で地域の組織(国頭村森林組合)と地域指導者と連携して約30名の受講生を受け入れ、好評のうちに終了することができた。成果分析を元に生涯学習教育研究センターの紀要に論文を執筆中。</p> <p>④JICA研修における講義(計6時間)、沖縄県かりゆし長寿大学における講義(計4時間)及びカリキュラム作成にあたっての支援(相談、教材選定等)を行った。</p> <p>⑤免許状更新講習3件(琉球大学及び石垣島)を提供した。</p>
管理運営	0.20	<p>①全学エコロジカルキャンパス推進委員会の企画部会委員として、学内の環境マネジメントシステム構築に参画し、特にエコロジカル・キャンパス学生委員会の指導教員として学生活動を支援する。</p> <p>②全学学生教育プログラム委員会において、ワーキンググループメンバーとして積極的に関わる。</p> <p>③生涯学習教育研究センター運営委員として、紀要編集委員を務める等センター運営に積極的に関わる。</p> <p>④全学対象の環境総合副専攻の担当教員の一人として科目担当及び副専攻の効率良い会議運営に携わる。</p> <p>⑤セクシャルハラスメント相談窓口として、当事者が相談しやすい環境づくりを図る。</p> <p>⑥副学長諮問委員会「ハラスメント規程委員会ワーキンググループ」への参画。</p>		0.20	<p>①全学エコロジカルキャンパス推進委員会委員として、主に学生委員会の担当教員となり、学生活動(8月環境報告書作成、11月「平成27年度第2回学生と学長との懇談会」実施、12月エコプロダクツ2015出展、毎月のクリーンキャンパス大作戦等の企画・運営・引率)の支援にあたった。</p> <p>②生涯学習教育研究センター運営委員として、公開講座の担当及び紀要編集委員を務め、センター運営に積極的に関わった。</p> <p>③全学対象の環境総合副専攻及び琉球学副専攻の担当教員として科目担当及び副専攻の効率良い会議運営に携わった。</p> <p>④セクシャルハラスメント相談窓口であるが、全学的に窓口の認知度が低く、周知に力を注ぎたい。</p> <p>⑤「ハラスメント規程委員会ワーキンググループ」の開催は無かった。</p>
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		